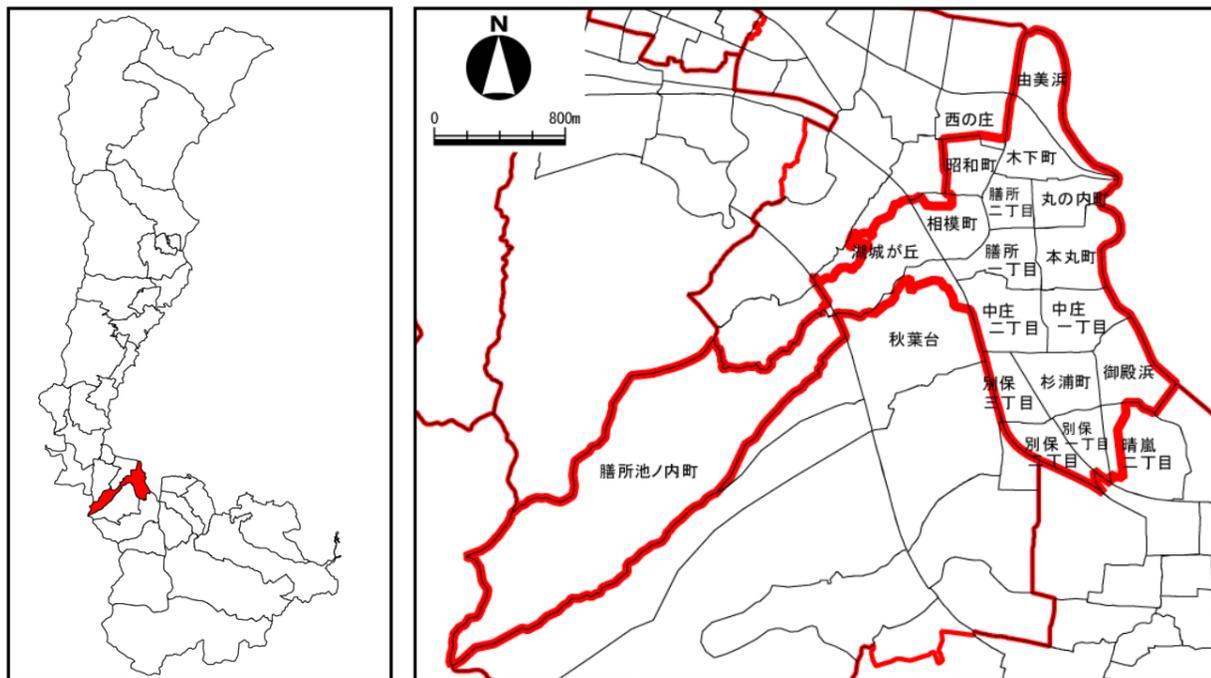


■ 学区の概況



<町丁名>

西の庄の一部、木下町、昭和町、相模町の一部、膳所一丁目、膳所二丁目、丸の内町、本丸町、中庄一丁目、中庄二丁目、御殿浜、杉浦町、別保一丁目、別保二丁目、別保三丁目、湖城が丘の一部、秋葉台の一部、膳所池ノ内町、晴嵐二丁目の一部、由美浜

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

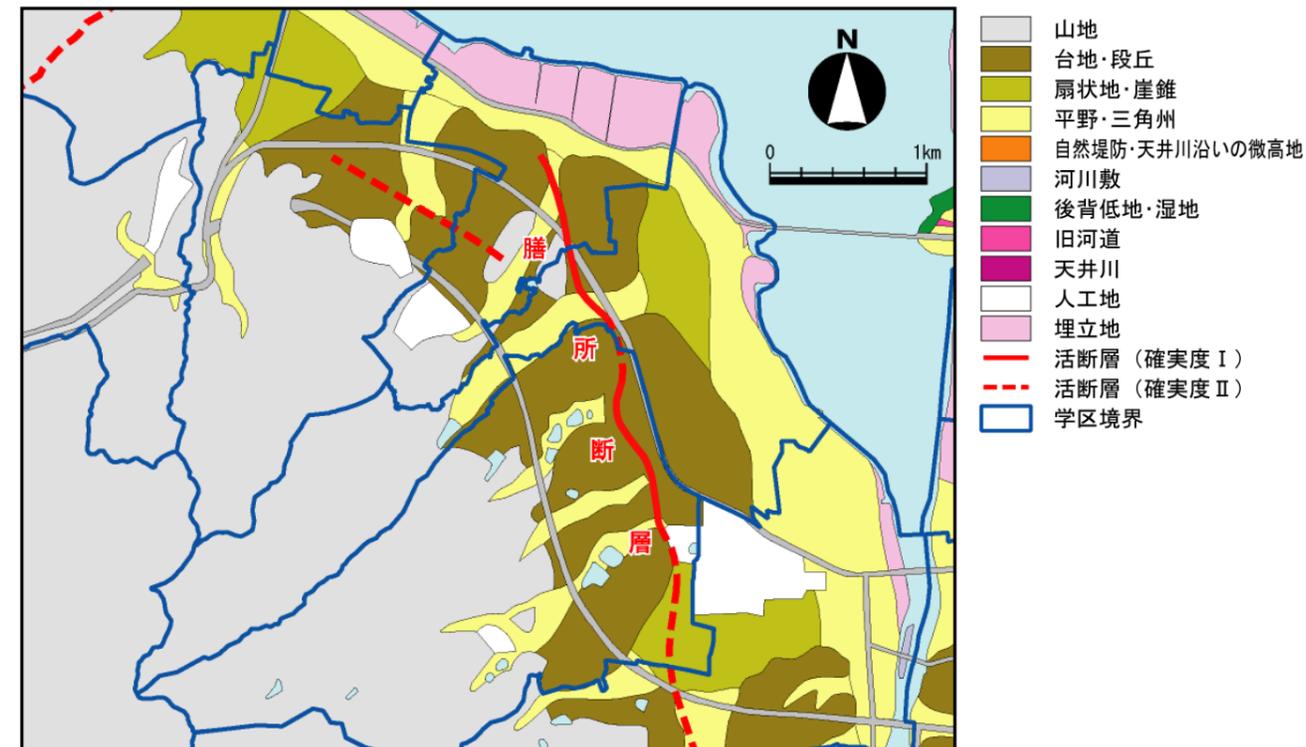
<学区の特徴>

東海道の五十三番目の宿であり、京の都への玄関口として栄えてきた。古くから湖上交通が盛んであり、平安京の外港として重要な機能を果たしていた。江戸時代には湖岸に膳所城が築城された。現在も当時の繁栄ぶりを伝える文化財や、町並み、町屋が多く残っている。

琵琶湖岸沿いには、水に親しめる公園としてなぎさ公園が整備され、一年を通じて様々な催しが行われるなど憩いの場となっている。

国道1号と名神高速道路に挟まれた区域やそれよりも山側では、昭和30年代から宅地開発が進んでおり、湖城が丘などの住宅地域が形成されている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。  
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 膳所学区の地形は、JR 琵琶湖線付近を境として琵琶湖側には低地が広がり、山手側には丘陵地が広がる。南西から名神高速道路付近までは、主に山地が分布している。
- 古くからの市街地は丘陵・段丘や平野に広がり、中・高位の段丘上に湖城が丘などの新しい町が開発されている。
- 由美浜や膳所城跡公園は埋立地である。

<地質の特徴>

- 山地部は、主に丹波帯とよばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約 200 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- 学区北東部には、膳所断層の北部が通過している。膳所断層は、馬場から国分付近まで延びる、長さ約 4.5km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) <sup>(注1)</sup>	不燃領域率 (%) <sup>(注2)</sup>	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
西の庄	74.3	61.5	78.3	57.7
木下町	75.2	66.4	75.7	53.3
昭和町	75.4	79.3	68.8	48.7
相模町	82.2	91.2	47.9	68.6
膳所一丁目	71.0	46.8	85.7	52.5
膳所二丁目	89.7	69.5	85.3	63.9
丸の内町	71.9	64.0	78.3	50.7
本丸町	45.9	89.2	50.4	64.2
中庄一丁目	63.1	65.2	76.3	59.8
中庄二丁目	66.2	68.5	80.0	47.9
御殿浜	65.1	82.1	72.4	57.7
杉浦町	72.6	50.5	86.9	51.4
別保一丁目	73.0	54.5	83.1	53.1
別保二丁目	62.4	67.3	81.5	49.6
別保三丁目	72.6	66.1	79.2	34.8
湖城が丘	74.7	59.1	79.0	37.9
秋葉台	70.9	73.7	79.7	26.8
膳所池ノ内町	-	-	69.6	46.2
由美浜	-	-	-	-
晴嵐二丁目	-	-	33.0	36.9
学区平均	71.8	80.6	76.9	47.2
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は71.8戸/haで市平均(全学区の平均)の59.3戸/haを大きく上回り、市内で5番目に高い。
- 不燃領域率の学区平均は80.6%で市平均の93.9%より低い。
- 木造率は、杉浦町が86.9%で最も高く、晴嵐二丁目が33.0%で最も低い。学区平均は76.9%で市平均72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、相模町が68.6%で最も高く、秋葉台が26.8%で最も低い。学区平均は47.2%で市平均40.3%より高い。

■ 人口の状況

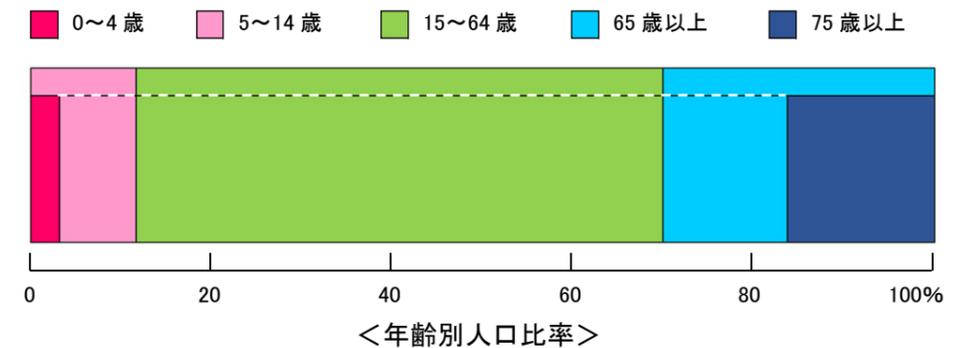
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	15,437	人		-	1
年齢別 (0~4歳)	489	人	学区人口に対する割合	3.2	1
年齢別 (5~14歳)	1,309	人	学区人口に対する割合	8.5	1
年齢別 (15~64歳)	9,014	人	学区人口に対する割合	58.3	1
年齢別 (65歳以上)	4,661	人	学区人口に対する割合	30.1	1
年齢別 (75歳以上)	2,529	人	学区人口に対する割合	16.3	1
世帯数	7,574	世帯		-	2
1世帯当たり人口	2.0	人/世帯		-	2
要介護認定者	1,060	人	学区人口に対する割合	6.9	3
身体障害者 (要配慮者)	255	人	学区人口に対する割合	1.7	4
知的障害者 (要配慮者)	31	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	308	人	学区人口に対する割合	2.0	5

(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30現在)、4: 大津市データ (R4.3.31現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区東部の平野・扇状地・段丘部は人口集中地区(DID地区)である。
- 高齢者(65歳以上)は4661人、乳幼児(0~4歳)は489人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ30.1%、3.2%である。
- 高齢者の学区人口は、市内で2番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均(27.2%)より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均(3.9%)より低い。
- 要介護認定者は1060人(6.9%)、身体障害者(要配慮者)は255人(1.7%)、知的障害者(要配慮者)は31人(0.2%)である。
- 外国人居住者は308人(2.0%)である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <sup>(注1)</sup>	6 箇所	1
土石流危険渓流 <sup>(注1)</sup>	3 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	7 箇所	2
土砂災害警戒区域 <sup>(注1)(注2)</sup>	18 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <sup>(注1)</sup>	0 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） <sup>(注1)</sup>	0 箇所	3
雪崩危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	1
浸水想定区域 <sup>(注3)</sup> (0.0m~0.5m)	150,531 m <sup>2</sup>	6
(0.5m~1.0m)	48,060 m <sup>2</sup>	6
(1.0m~2.0m)	39,536 m <sup>2</sup>	6
(2.0m~)	20,503 m <sup>2</sup>	6
特に重要な水防区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	7
重要水防区域 <sup>(注1)</sup>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <sup>(注1)</sup>	3 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1: 滋賀県砂防課 (R3.7.16) 2: 滋賀県砂防課 (R3.2)

3: 滋賀県森林保全課 (R3.11) 4: 滋賀県砂防課 (H24.12) 5: 農林振興課、砂防課 (H24.12)

6: 淀川水系 洪水浸水想定区域図(想定最大規模)(瀬田川上流: H31.3.19、瀬田川下流: H29.3.21、琵琶湖: H31.3.19、草津川: R1.10.1、大戸川: H31.3.19)

7: 琵琶湖河川事務所 (R2.6) 8: 大津市産業観光部 (R3.12)

<防災上の特性>

- 膳所学区は、JR 琵琶湖線付近を境として琵琶湖側には低地が広がり、山手側には丘陵地が広がる。斜面と住宅との距離が近いのが特徴で、学区内では名神高速道路の周辺に土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている斜面が存在している。
- 学区内に土砂災害警戒区域に指定されている箇所がある。
- 土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている地域には住宅地も含まれており、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。また、地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して二次的災害が発生する可能性もある。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。
- 学区内には、膳所断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動(地震の揺れ)によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある(このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている)。
- 地震時には、特に湖岸沿いの埋立地部で、液状化が発生する可能性がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急 避難場所	膳所小学校グラウンド	○	○	○		中庄二丁目 8-37
	膳所幼稚園グラウンド	○	○	○		中庄二丁目 6-5
	滋賀県立膳所高校グラウンド	○	○	○		膳所二丁目 11-1
	滋賀県立膳所高校第2グラウンド	○	○	○		相模町 4
	膳所城跡公園	○	○	○		本丸町 7
	膳所保育園グラウンド	○	○	○		昭和町 17-32
	滋賀大学教育学部附属学校グラウンド	○	○	○		昭和町 10-3
	湖城が丘街区公園	○	○	○		湖城が丘 33
指定緊急 避難場所 兼 指定避難所	膳所市民センター	○	○	○		本丸町 6-40
	膳所小学校体育館	○	○	○		中庄二丁目 8-37
	膳所幼稚園	○	○	○		中庄二丁目 6-5
	滋賀県立膳所高校体育館	○	○	○		膳所二丁目 11-1
	生涯学習センター	○	○	○		本丸町 6-50
	膳所児童館	○	○			昭和町 15-15
指定避難所	膳所ふれあいセンター	○	○	○		昭和町 15-25
	(福) 膳所保育園				—	昭和町 17-32

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
膳所市民センター	本丸町 6-40	524-2205

<警察 110>

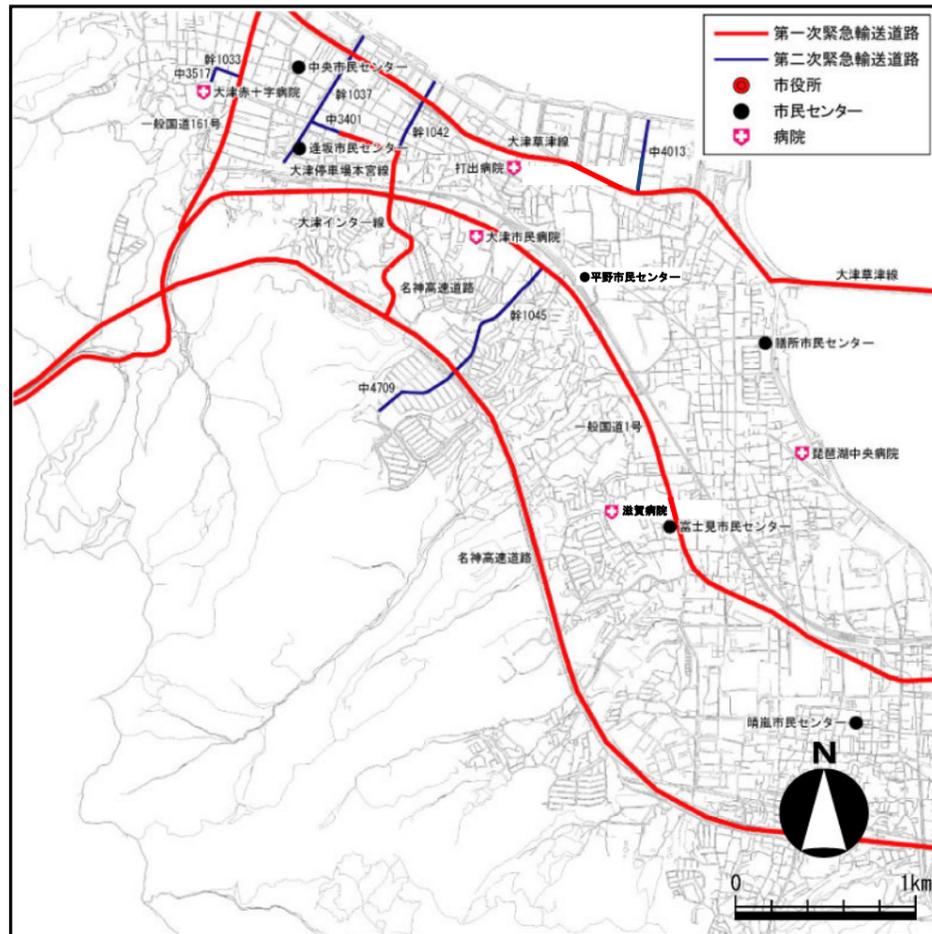
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
南消防署	光が丘町 5-7	533-0119
膳所分団	本丸町 6-40	526-0130



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111
病院		琵琶湖中央病院	御殿浜 22-33 526-2131

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数		
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	5,733	17,401	399	1,460	1,129	6	5	4	353	279	265	22	17	17
ケース2	5,733	17,401	938	1,585	1,730	17	11	12	398	318	305	20	16	15
ケース3	5,733	17,401	1,421	1,463	2,153	30	26	22	218	186	173	12	10	9

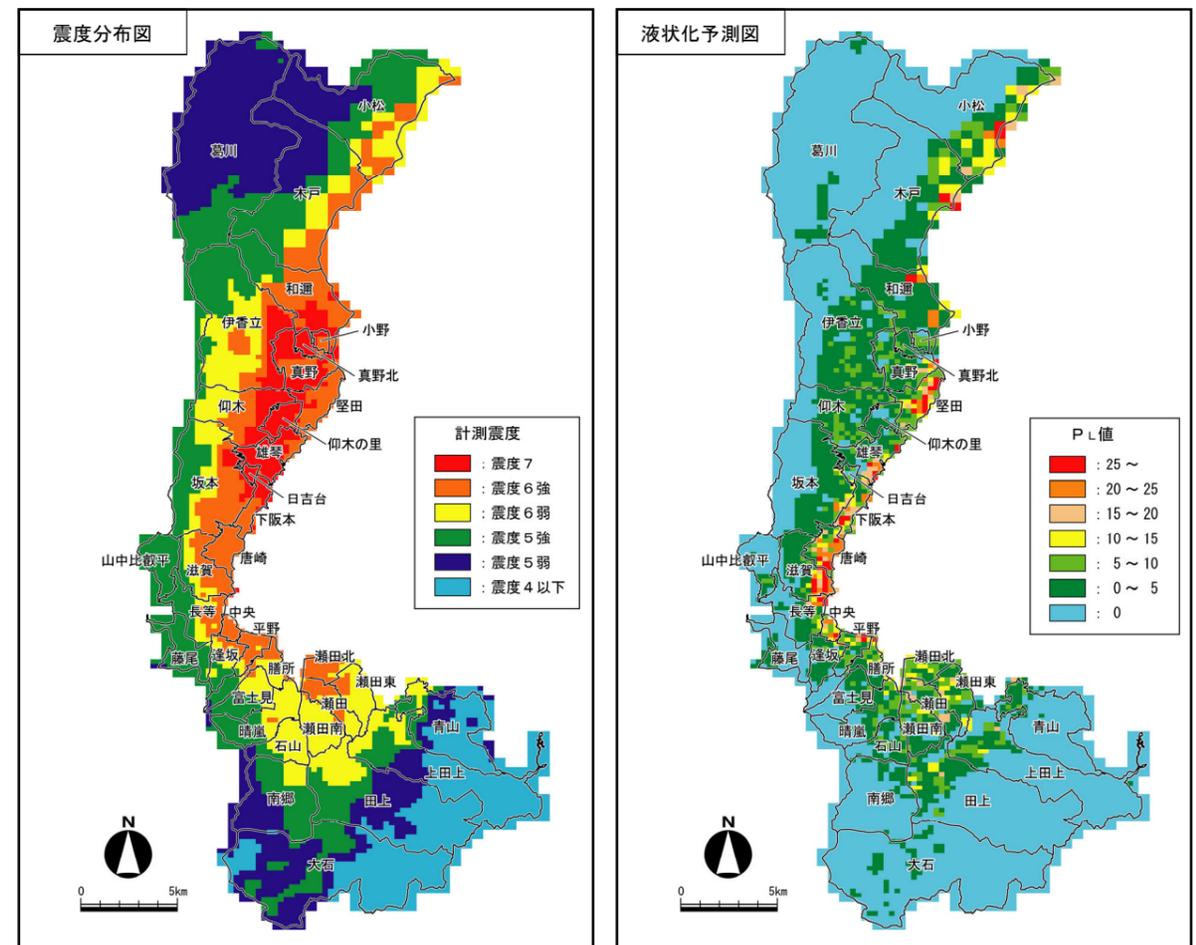
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	1	1	1,624
ケース2	1	2	3	2,193
ケース3	1	3	3	2,474

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

( PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生  
PL ≥ 20 激しい液状化 )

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

